

特定非営利活動法人

# 埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース 第13号



アケビ *Akebia quinata* (2020,4.06)

## も く じ

|                           |          |
|---------------------------|----------|
| 「埼玉生物11号(1971)」に見る植物の生態変化 | P. 2 - 4 |
| 活 動 レ ポ ー ト               |          |
| 総会報告                      | P. 5     |
| 野外観察会報告(山下)               | P. 6     |
| NPO公開講座実施報告(三上)           | P. 7     |
| あとがき                      | P. 8     |

## 「埼玉生物 11 号 (1971)」に見る植物の生態変化

矢島民夫

この調査は埼玉県高等学校生物研究会（高生研）が県内の全会員に対し、近年県内でその生息数が著しく減少または増加している動植物を任意に報告してもらったものである。1969～1970 年の 2 年間の報告をまとめられたものと思われる。筆者が高生研の会員となった 1969 年にセイタカアワダチソウの急激な増加が言われるようになり、国道 4 号沿いの分布調査を依頼（杉戸農高、北田）されたことを思い出す。

現在この報告から 50 年が経ち、すでに絶滅したと思われる植物の記録や興味深い報告もあり、改めて調査確認する必要があると思われるのでここに載せることとした。

武甲山の北斜面の報告（能見）に見られるミヤマスカシユリ、ミスミソウ、チチブイワザクラは生育が確認されているが、ムラサキとヒメシャガの 2 種は現在まで生育の確認はない。

入間市小谷田のオオニガナは墓地の造成で絶滅寸前（野口）とされているが、現在は生育記録がない。東京都側では保護されているようであるが、埼玉県側は文献のみで生育は確認されていない。1998 年版埼玉県植物誌では県北に 3 か所の生育が記録されているが、寄居町三ヶ山はすでに埋め立てられ絶滅している。

日高市姥田（女影、仙女ヶ池と思われる）の食虫植物群落は絶滅寸前と報告（野口）があり、入間市内のもの（場所は不明）は宅地造成で絶滅としている。愛川は「さいたま植物通信」19-1 で 1956（昭和 31）年以前にモウセンゴケ、ミミカキグサを観察していることを報告している。モウセンゴケの報告（吉野）は小川町角山、寄居町三ヶ山の両生育地で減少しているとしている。上記のように寄居町三ヶ山では絶滅している。また高萩・仙女ヶ池でもモウセンゴケが 3・4 年前よりほとんど絶滅寸前と報告（山口）している。

クマガイソウについては多くの報告がある。クマガイソウは愛好家も多く目立つため園芸用に採掘されることが多い。このため狭山市水野（野口）、上尾市平塚（大垣）、川越市郭町、清水町（愛川）、大宮市奈良町（末岡）、岩槻市大田（ト沢）などは現在生育が確認できない場所である。現在生育が確認されているのは、浦和市大間木（大垣）、大宮市片柳御蔵（斉藤）わずか 2 ヶ所だけである。

サクラソウについては朝霞市下内間木・上内間木（大垣）、桶川市川田谷・樋の爪、朝霞市上内間木から新田にかけて（礒田）、朝霞市内間木（田村説三）で、これらの地域では急激に減少しているとされ、現在わずかに残されている地域は桶川市川田谷だけである。

川越市伊佐沼では沼底の浚渫工事が行われ、多くの水生植物の絶滅が報告（安藤）されている。その中にはアサザ、ガガブタ、オニバス、デンジソウ、トチカガミ、タヌキモ、イバラモ、トリゲモ、ミズアオイ、ジュンサイなどが記録されている。

ヒロハアマナについては入間市高倉（野口）、荒川下流の原野・落葉樹林中（礒田）、志木市荒川右岸（荒野）などについて著しい減少を指摘している。

このほかに貴重な生育地を見ると、ヒメザセンソウは清瀬近くの埼玉県側（礒田）で絶滅寸前、ムジナモ羽生市三田ヶ谷宝蔵寺沼（小野田）で 1968 年 6 月の出水により絶滅、オキナグサは行田市近辺（田村ツル）で減少、シュスランは大宮市奈良町（末岡）減少、トダスゲは岩槻市慈恩寺（ト沢）で絶滅などが報告されている。

埼玉生物 11 号 35～38 ページから（動物部分は省略）

埼玉県の生物の生態変化に関する調査

下表は埼玉県高等学校生物研究会の会員が調査したものを事務局で一覧表にまとめたものです。表の形にまとめたので意をつくせないところもありますがご容赦ください。この他にもたくさんの事例があると思いますが、また次号で発表したいと思います。

A. 絶滅または衰弱している動物（植物）

| 生物の名称                     | 調査場所                      | 調査の状況  | 推定原因             | 調査者  | 所属氏名  |
|---------------------------|---------------------------|--|------------------|------|-------|
| ミヤマスカシユリ                  | 武甲山北斜面                    | 1954年頃より減りはじめ、現在めしもり山付近に群生するだけ   | 自然開発（石炭岩採掘）      | 秩 父  | 能見 三郎 |
| ミスミソウ                     | 〃                         | 1967年丸山近くに群生していた（現在登山路閉鎖のため不明）   | 〃                | 〃    | 〃     |
| ヒメシヤガ                     | 〃                         | マク岩上に一部自生しているだけ  | 〃                | 〃    | 〃     |
| チヂビワザクラ                   | 〃                         | 1964年頃から少なくなり、現在マク岩に自生しているだけ   | 〃                | 〃    | 〃     |
| ムラサキ                      | 〃                         | めしもり山付近に数株自生するだけ   | 〃                | 〃    | 〃     |
| モウセンゴケ集団                  | 高萩・仙女ヶ池                   | 3・4年前よりほとんど絶滅寸前  | 乱獲               | 飯 能  | 山口 晋平 |
| フモトシダ・エビネ                 | 飯能・朝日山                    | やがて絶滅する  | 下草刈り、樹木伐採        | 〃    | 〃     |
| ヒロハアマナ                    | 入間市高倉                     | 絶滅寸前   | 宅地造成             | 豊 岡  | 野口徳太郎 |
| ヒロハアマナ                    | 荒川下流の原野、落葉樹林中             | 〃  | ゴルフ場・運動場用地に転換    | 蕨    | 磯田 洋二 |
| オオニガナ                     | 入間市小谷田                    | 〃  | 墓地造成             | 豊 岡  | 野口徳太郎 |
| ヒカゲスミレ                    | 狭山市水野                     | 〃  | 宅地造成             | 〃    | 〃     |
| コシダ                       | 入間市高倉                     | 〃  | 植生の変化・宅地造成       | 〃    | 〃     |
| 食虫植物群落                    | 日高町鏡田                     | 絶滅寸前（入間市内のものは宅地造成で絶滅）  | 産獲               | 豊 岡  | 野口徳太郎 |
| クマガイソウ自生地                 | 狭山市水野                     | 絶滅   | 宅地造成             | 〃    | 〃     |
| クマガイソウ                    | 浦和市大間木・上尾市平塚              | 著しく減少  | 〃                | 浦和南  | 大垣 晃一 |
| イカリソウ・エビネ<br>ホトトギス・クマガイソウ | 大宮市片柳・御蔵見沼の低地帯周辺          | 減少（1868年頃よりクスギ・ナラ・アカマツ林などがなくなっている）   | 工場進出・宅地造成        | 大宮西  | 斎藤 良夫 |
| キンモウワラビ                   | 秩父郡小鹿野町三田川（二子山）           | 1964年頃にほとんど絶滅  | 〃                | 秩父農工 | 福島 義一 |
| トシボ類                      | 秩父郡横瀬村宇根・根古屋              | 急激に種類と個体数減少  | セメント工場進出・農業      | 〃    | 〃     |
| サクラソウ群落                   | 朝霞市下内間木・上内間木              | 残存されているところも減少速度が急激に進行  | 武蔵野線建設・工場進出・用土運搬 | 浦和南  | 大垣 晃一 |
| サクラソウ                     | 福川市川田谷・樋の爪朝霞市上内間木から新田にかけて | 群生地の破壊が著しい   | 鉄道建設・乱獲・工場用地化宅地化 | 蕨    | 磯田 洋二 |
| 竹林およびサクラソウ群落              | 朝霞市内間木                    | 部分的に竹林が破壊  | 宅地・工場等の土地開発      | 朝 霞  | 田村 説三 |
| クロチク（黒竹・紫竹）               | 朝霞市内間木                    | 自然開発のためやがて姿を消すと思われる  | 栽培者がいない          | 蕨    | 磯田 洋二 |
| ヒメゼンソウ                    | 清瀬近くの埼玉県側                 | 絶滅寸前   | 乱獲・養鶏場建設         | 〃    | 〃     |
| 深谷 並木                     | 深谷市常盤町旧道                  | 樹勢弱く枝がわずかに残る程度（1970年8月）  | 樹令・自動車の排気ガス      | 能 谷  | 高橋 重男 |
| 玉 垂 楓                     | 寄居町藤田正竜寺                  | 南側の主枝が枯死・東側にもキノコ発生（1470年8月）  | 菌の侵蝕高木伐採による環境変化  | 〃    | 〃     |
| ハルニレ                      | 深谷市原郷松山神社                 | 北側主枝切断・幹も空洞化   | 切断理由不明、病菌か？      | 〃    | 〃     |
| 水生植物                      | 川越市伊佐沼                    | 次のものは絶滅（アサデ、ガガブタ、オニバス、アギナシ、ウリカワ、テンジソク、シズクラビ、ドチカガミ、タマキモ、ヒメジシ、ヒジ、エビネ、イバラモ、トリゲモ、オモダカ、ミズアオイ、ジュンサイ、シャジクモ） | 沼底の浚渫工事          | 朝 霞  | 安藤 一男 |

## B. 最近異常に繁殖している動植物

| 生物の名称                       | 調査場所             | 調査の状況                   | 推定原因                        | 調査者<br>所属氏名 |
|-----------------------------|------------------|-------------------------|-----------------------------|-------------|
| セイヨウタンポポ                    | 秩父郡一帯            | 非常に多くなっている              |                             | 秩父 能見 三郎    |
| ハキダメギク・ハルジオン<br>・アメリカセンダングサ | 飯能市周辺            | だんだん増えてきている             | 自然開発                        | 飯能 山口 晋平    |
| アメリカアリタソウ・ブタクサ・ハルジオン        | 所沢市緑町・小手指付近      | 1967年以來よく観察する           | 宅地化・自然環境の変化                 | 横田 隆夫       |
| アレチウリ                       | 入間市内およびその付近      | 1962年頃より茶園、道ばた、川原に進出    | 航空貨物に付着して帰化                 | 豊岡 野口徳太郎    |
| ヒメガマ群落                      | 浦和市辻             | 水田休耕地に増殖著しい             |                             | 浦和南 大垣 晃一   |
| オオアワダチソウ群落                  | 草加市周辺            | 近年ますます繁殖中、群落が大型化する傾向がある | この植物の根を食物とするノネズミが繁殖し、被害が著しい | 上野学園 山下 豊   |
| アワダチソウ<br>アメリカセンダングサ        | 大宮市三橋<br>新大宮バイパス | 1968年頃より急激に目立ち始める       | 自動車・工事用砂利・砂に付着してきた          | 大宮西 斎藤 良夫   |
| セイバンモロコシ                    | 浦和市大谷場一ツ木        | 1968年頃より駅前工事に群生         | どこからか客土した土の中に混入してきた         | 浦和通信 市川 和夫  |
| セイヨウタンポポ                    | 熊谷市内             | 2・3年前から目立つ              |                             | 熊谷 高橋 重男    |

## 埼玉県の生物の生態変化に関する植物調査（埼玉生物 11 号 P.38 へ追加する部分）

### A. 最近絶滅または衰退している植物

| 生物名称  | 調査場所       | 調査状況                        | 推定原因           | 調査所属<br>調査氏名 |
|---|------------|-----------------------------|----------------|--------------|
| コガマ、ヨシ、ワマガイソウ、イカリソウ、チンパンショウ                   | 〃          | 減少                          | 〃              | 〃            |
| ヒロハアザミ、キョウジソウ、キセルアザミ、ホソバオウルマ                  | 志木市荒川石岸    | 衰退著しい                       | 帰化植物集団の侵入      | 細田学園 志野寿子    |
| ササガハシロ、ヤブタバコ、ガンビソウ、カンバノハ、コヤナボク、センボンマツ、ナンバシヤセル | 熊谷市赤崎地区    | 1955年頃より種数が減少               | 自然開発           | 〃            |
| モウセンゴケ  | 小川町山山      | 踏みつぶされて減少                   | 土砂崩壊、下草の繁茂     | 小川 吉野政治      |
| モウセンゴケ  | 大里郡新居町三ヶ山  | 個体数に減少がみられる                 | 〃              | 〃            |
| ムシナモ  | 羽生市三田山主蔵寺  | 1968年6月の採集で絶滅               | 農薬流入による沼の水質変化  | 春日部女子 小野田勝次  |
| ホルボックス  | 戸田市内ポートコース | 1968年までは毎年5月頃確認できたが、その後みられず | 工場排水等による沼水の内流入 | 戸田 中村 武      |
| タンポポ、スミレ、モジズリ、ワレモコウ、ジュウニヒトエ、オキナグサ             | 行田市近辺      | ぬきり少なくなった                   | 農薬             | 行田女子 田村ツル    |
| イカリソウ、スズラン、ワマガイソウ、ヤマアザミ、シ、ウド、クワキ              | 大宮市奈良町     | かなり減少                       | 田地造成           | 〃 石坂基泰       |
| ワマガイソウ(白バナ)                                   | 信州市太田      | 1965年頃より非常に減少               | 山林伐採、竹林枯死      | 岩 視 大沢 牧田    |
| ショウジョウバエ                                      | 〃 春日部市一帯   | 1960年頃絶滅                    | 埋れ立て           | 〃            |
| トクサゲ  | 岩槻市慈恩寺     | 絶滅                          | 〃              | 〃            |

※最上部は川越市郭町・清水町低地：減少：ゴミ、地下水の枯渇：川越：愛川敬武

### B. 異常繁殖の動植物

|                                      |              |                        |               |            |
|--------------------------------------|--------------|------------------------|---------------|------------|
| アワダチソウ、ヒメジョオン、ヒメジョオン                 | 東北線 栗原五里線沿線  | 新設道際沿いに急激に繁殖           | 埋土時に混じりて分散その他 | 杉戸農学 北田光一  |
| ハルジオン、ヒメジョオン、ヒメジョオン、アワダチ、アメリカアリタソウなど | 荒川羽倉橋沿線の堤防周辺 | 修繕後から徐々に分布し始めて、全国的に広がる | 繁殖力旺盛、運搬力大    | 細田学園 志野寿子  |
| ヒメジョオン、オオマツヨイアサ                      | 川口市周辺        | 増加の傾向                  |               | (川) 越 愛川敬武 |

## レポ ー ト

### 【総 会】

日 時：令和元（2019）年 6 月 2 日（日）10:00～12:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：会員 48 名中 26 名（うち書面による出席 16 名）

#### 会員の異動

新たに 2 名の新入会員と退会者 3 名の会員異動が報告された。

牧野代表理事が議長を務め、以下の議題が審議された。

平成 30 年度事業報告、決算報告、貸借対照表

令和元（2019）年度事業計画、予算案などが審議された。

総会に先立ち「第 1 回理事会」が下記のように開催された。

日 時：令和元（2019）年 6 月 2 日（日）9:10～10:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：理事 11 名中 11 名（うち書面による出席なし）

平成 30 年度事業報告、決算報告、令和元（2019）年度事業計画、予算案などが審議・承認された。

### 【調査委員会議兼調査員会議】

日 時：令和元（2019）年 6 月 2 日（日）13:30～15:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：会員 26 名

- 1 平成 30 年度（2018）年度希少野生動植物種選定調査(植物)報告書
- 2 平成 30 年度（2018）年度会計報告、令和元（2019）年度予算案報告
- 3 令和元（2019）年度に行うべき業務の打ち合わせが行われた。

調査する希少野生植物種の種類と調査報告書の記入方法について説明があった。

## 【野外観察会報告】

日時：平成 31 年 9 月 28 日（土）

場所：東京都あきる野市 横沢入り方面

参加者：15 名（指導者：山下 裕理事）

天気：晴れ

活動内容：秋の植物観察

今回は、東京都あきる野市、横沢入り里山保全区域で秋の植物観察を行いました。9 時 JR 武蔵五日市駅に集合して、林道横沢・小机線～横沢入り田んぼ～大悲願寺～五日市街道～武蔵五日市駅までのコースです。

駅から歩いて林道に入り、最初に目についたのが黄色い花のキバナアキギリです。やや暗い林床に咲いていました。続いて、やや湿った道路脇にツリフネソウ、フジカンゾウのピンクの花と実、埼玉県ではあまり見られないヤマホトトギス、途中希少植物のトキホコリが 50 株確認できました。植物を観察しながら、天竺峠を越えていくと横沢入り里山保全区域の田んぼに到着します。ここは、地元の NPO 団体が管理している場所で、無農薬の米を作っています。また、子供たちを集めて、里山の自然体験も実施しています。当日は、小学校低学年を対象にした、水田の動物採集・観察を行っていました。魚やアメリカザリガニなどの他に、珍しいヒバカリという蛇を捕まえた子供もいました。ここでは収穫した後の水田の植物と、畔道の植物を観察しました。水田では、オモダカ、イボクサ、コ

ナギ、アメリカタカサブロウなど。また畔では、ユウガギク、ノハラアザミ、ヤノネグサ、ツリフネソウ、ツリガネニンジンなどが見られました。ここで特筆すべき植物は、カリガネソウです。埼玉県では、2005 年までに 1 件報告があったようです。紫の花弁から、おしべと花柱が弓形に伸びている奇妙な形をしています。参加者の皆さんの感激の聲が聞こえてきました。続いて大悲願寺の境内に到着しました。この寺は真言宗の古刹で開山は 800 年前、木造伝阿弥陀如来三尊像が国の重要文化財に指定されています。ここは白花のハギが有名です。帰り道は、五日市街道に沿って歩き、15 時 30 分 JR 武蔵五日市駅に到着し解散しました。歩行距離約 5 km、高低差 300m、普段の観察会と比較したら、今回はよく歩いたと思います。（文責：山下 裕）



カリガネソウ

## 【2019 年度公開講座予定及び実施報告】

今年度は6月以降には以下4回の公開講座の実施を予定していたが、10月19日と11月16日は荒天予報のため、3月22日は新型コロナウイルス蔓延のために中止され、1回のみ実施となった。

①6月30日（日）9:00～11:30 北本自然学習センター 北本自然学習センターの夏の植物観察

②10月19日（土）9:00～11:30 荒川大麻生公園 荒川大麻生公園の秋の植物観察

③11月16日（土）9:00～14:30 武州日野駅周辺 熊倉山麓の春の植物観察

④3月22日（日）9:00～14:30 秩父市橋立川 橋立川の早春の植物観察

実施した6月30日の参加者は18名で、雨の中北本自然学習センターでの植物観察を行った。コウホネの花やクララの果実、ケヤキの果実、ガマとヒメガマの花穂の違いなどを参加者は熱心に観察していた。参加者の中に埼玉県立越谷北高校の中川大樹教諭がおり、昆虫の話も交えて午前中の観察会となった。（文責：三上 忠仁）



ガマ



観察中



コウホネ

## 【あ と が き】

今年度は「環境省の第5次レッドリスト作成現地調査」の追加調査が行われました。平成31年（令和元年）度「県内希少野生動植物種」植物種選定調査報告書の作成も、例年のように無事終えることができました。また、毎年繰り返される調査費の不足問題は、調査員の効率的な調査で何とか解決できました。このため今年度は、奥秩父の宿泊調査が実施されなかったが、さらなる充実した調査活動ができるように努力が必要と考えられます。

**増補改訂版「フィールドで使える 図説 植物検索ハンドブック」**が急きょ増刷されることになりました。このため改訂作業が3月末の出版に向けてあわただしく行われました。シダ類の大幅な改訂が行われ、バラ科やマメ科などの移動もありページが移動し、索引の確認など大幅な改訂作業となりました。関係者のご努力で「改訂新版」として、何とか3月末に間に合いました。既に本屋さんに並んでいると思いますが、NPOでも若干頒布（3000円）できます。

本年は会報「さいたま植物通信48号、49号」を発行することができました。「さいたま植物通信」は毎年2回の発行を考え予算を計上しています。当面は年2回の予定ですが、原稿の集まり具合では増刊も考えられます。これからも長く続くようみなさんの寄稿をお待ちしている。

### <表紙の写真>

アケビは県内の山地帯から低地帯にかけて、ほぼ全県的に見られるつる性低木。牧野植物図鑑には“アケビは果実の名であってこの植物を指して言う時はアケビカヅラと呼ぶべきである”書かれている。アケビの名称は果実が熟し割れた様子をヒトの「あくび」に似ていることから「あけび」変化したとか、熟した果実が口を開けたように裂けることから「開け実（あけみ）」から「あけび」になった等々諸説がある。

花は雄花と雌花が別々につき、写真中央のやや大きい花が雌花である。雄花はやや小さく、6個の雄蕊がミカンの房のように並んでいる。

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース NO. 13

2020年3月31日発行

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

事務局 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857

発行所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857